

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	八雲町交流事業						担当部	市民産業部				
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生活交流課				
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	交流係				
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活		2 交流		3 姉妹都市・友好都市などとの交流を深める						
		副目的											
	予算区分	款	2		項	1	目	3		大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	八雲町営小牧荘の利用料助成に関する要綱											
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	45 %		委託	0 %		助成	55 %				
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	年少者から高齢者まで幅広く、友好都市である八雲町を知ってもらい、八雲町との交流を促進する。											
	内容 (手段)	<p>○平成23年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友好都市八雲町との交流を促進するため、八雲町にある「町営小牧荘」宿泊者に対して宿泊料の補助を実施した。(大人:1泊5,000円)。 ・職員は助成金の支払い事務のほか、小牧市・八雲町交流市民の会の事務局を担当している。同会は会費制により運営し、市からの補助はない。 ・小牧市・八雲町交流市民の会では、夏の北海道・八雲町自然体験ツアーを実施し、小牧市民と八雲町との交流の場を設けたり、八雲町の特産物を会員に配布したりすることでつながりをつくっている。 <p>(経費)交流の家「小牧荘」宿泊料助成金 1,194,300円 (小牧荘宿泊料自己負担額(平成23年度まで)) 大人1泊2日1,470円 小学生1泊2日1,300円</p> <p>○平成24年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度をもって小牧荘が廃止になったことに伴い、新たな助成制度を創設し、引き続き宿泊料の助成を実施する。 <p><主な変更点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる施設を小牧荘1箇所から八雲町内の20箇所の宿泊施設に拡大 ・中学生以上、小学生、小学生未満で助成額が異なっていたが、5,000円に統一 ・対象者を小牧市在住、在勤、在学もしくは愛知県内の小牧市・八雲町交流市民の会会員とし、県外の会員と会員の家族を対象外にした。 <p>(経費)八雲町宿泊施設宿泊料助成金 1,750,000円</p>											
受益者負担	無												

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	1,411	3,963	1,373	2,794	
		正職員	従事者数	人	0.15	0.30	0.15	0.15
			人件費	千円	797	1,595	797	797
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,208	5,558	2,170	3,591	
	対前年比	%			251.7	39.0	165.4	
財源	一般財源	千円	2,208	5,558	2,170	3,591		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	小牧荘宿泊料助成 (H24からは八雲町宿泊 施設宿泊料助成)	件	目標		400	350	283
実績				254	318	243	
中部フィルハーモニー 八雲コンサート、音楽 指導	回	目標		—	1	—	—
		実績		—	1	—	
市内公共施設での小牧 荘PR	箇所	目標		—	5	7	15
		実績		—	5	7	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	小牧荘宿泊者(助成対 象者)(H24から八雲町 宿泊施設宿泊料助成)	人	目標		400	350	283
実績				254	318	243	
中部フィルハーモニー 八雲コンサート、音楽 指導参加者	人	目標		—	800	—	—
		実績		—	773	—	

事業の自己評価	事業の達成状況	小牧荘宿泊料助成事業については、目標は達成できなかった。理由としてはPR不足や施設のハード面や、立地面で旅行者のニーズに十分対応できなかったことが考えられる。しかし、200名を超える方に八雲町へ行っていただき、八雲町との交流のきっかけづくりに貢献した。
	事業実施における課題等	小牧荘の利用について、平成20年度からは毎年200人以上の利用があるため一定の利用のニーズはあると思われるものの、平成23年度は前年度よりも利用者数が減少した。施設のハード面において、個室がない、部屋にトイレがない、露天風呂がないなど、時代とともに変わる旅行者のニーズに十分対応出来なかったことや減少の要因のひとつではないかと予想される。
	事業を縮小・廃止したときの影響	資金面での助成がなくなることで、八雲町を訪問する小牧市民が減り、交流の機会が減少することが考えられる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持
	判定理由	平成24年3月31日に小牧荘が廃止になったことを契機に助成制度を見直し、より魅力的な、利用しやすい制度に変更したため。
	改善案等	時代とともに変わる旅行者のニーズに対応するため、制度を変更し、助成対象施設を八雲町内の20箇所に増やしたため、市民にとって利用しやすくなったことを、広報こまぎ、ホームページ、新聞、ケーブルテレビなどでPRすることで、助成制度の利用を促進し、八雲町との交流を活発なものにする。

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。